

このアルバムに寄せて

松本美和子

病理学者として世界の学会から注目される論文を発表しつづけ、大学では教鞭をとり、そして人の命を預かる医師として一線で活躍するのみでなく、世界に通用する一流のテナーとして舞台上に立つ、つまり二兎を追うもの…の諺に反して米澤さんは二兎を“獲て”いるわけです。まさに偉業というほかはないと思います。

今回の録音の事について相談を受けました時、多忙を極めるスケジュールを縫う様にして積み重ねてきた声楽家としての足跡を今残したい…その真剣な言葉にももちろん一も二もなく賛成はしましたが、声楽家として歌の道ひとすじに歩む者ならば十二分に時間をかける事が出来る準備も、また録音自体にかけるための時間の確保も、米澤さんの立場となると不可能な事が多い為、これから心身共に苛酷な想像を絶する努力が必要な事が良くわかっていましたから、私も戦いに挑む様な気持ちで心を引きしめました。

準備期間中更に高度なベル・カントのテクニック、そして深い音楽性を追求していきましたが、ご本人は覚悟の上というものの、心配していた通り練習時間が十分に取れない、歌詞を思う様に咀嚼できない等…果たして準備が間に合うのかと不安になってますます集中出来なくなり、頬がこけ、目には不安の光りがよぎる様な状態に追い込まれた事もありました。けれど、実際には毎回のレッスン毎に驚く様な進歩があり、人の命を預かる医師として真剣勝負の毎日を過ごされている米澤さんだからこそ音楽に対して同じ様に真摯に取り組みすばらしい結果を生み出したのです。並外れた集中力と理解力で何年分ものテクニックを一気に修得し、生来の艶やかな声に更に磨きをかける事が出来たのは、まさに比類のない努力の賜物というほかありません。

渡伊し更にレッスンを重ね、万全の姿勢で乗り込んだブルガリアでの録音はたった四日間、それも十五時間のみ。四日連続でこれだけの難曲を録音できたテノール歌手はかつて誰もいません。米澤さんはこの驚くほかはない離れ業を成し遂げてしまったのです。たとえどんな状況にしようと必ず自分のものにするという気概・根性・集中力で驚く程に自分を高める事が出来るということ、米澤さんは身を持って証明なさいました。

天与のきらめく声、あふれるばかりの情熱にみちた音楽を厳しい自己鍛練をもってここにすばらしいCDとして残された事に、心からの喜びと感動、そして尊敬の想いでいっぱいです。